

平成 27 年度 樟蔭中学校・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

<p>「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた、社会に貢献できる女性の育成をめざす</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自ら学び、自ら考える力を養う総合的な学力を育む 2 自らの興味・関心を深め、能力・適性をさらに伸ばし、将来の目標を達成する力を育む 3 自らの判断に基づいた行動ができる自立性と、社会生活や学校生活における規範意識の涵養に努めるとともに、様々な教育活動を通して豊かな人間性を育む
--

2 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 学力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業の充実 (2) 朝の学習や補習の充実 (3) 新しいカリキュラムに基づいた授業の実施と各コース目標の達成 (4) 生徒へのサポート 2 豊かな人間性の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生活指導を通じた“Little Lady”の育成 (2) 発達段階に応じたキャリア教育の充実 (3) 励まし合いや思い遣りの心を養う教育活動の充実 3 進路の保証 <ol style="list-style-type: none"> (1) 高校 3 年生の進路希望の 100%実現 (2) 中学生及び高校 1 年生・2 年生に対する発達段階に応じた進路意識の育成 4 教員力の向上 <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業力の向上 (2) 教職員の学校運営に係る体制づくり (3) 教員研修と資質の向上 5 入学生の確保 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「樟蔭ブランド」のアピール (2) 新しいコース・専科の取り組みについての徹底した広報活動
--

3 平成 27 年度の取組内容及び自己評価

	平成 27 年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	取組状況・達成状況・今後の改善方策
1 学 力 の 育 成	(1)授業の充実 ア. 教育 ICT の活用による授業の展開 イ. グループ学習などのアクティブ・ラーニングの実践	ア. 電子黒板や iPad などの教育 ICT を活用した、より魅力ある授業の展開 イ. 女子校の特性を生かした学び合いによるグループ学習などのアクティブ・ラーニングの実践	ア・イ 実施の有無 アンケート結果	ア. 教員個別アンケートによると、電子黒板を利用している教員は約 50%。他に iPad や TV を利用する教員も。(○) イ. グループ学習を授業に取り入れている教員は約 50% (○)
	(2)朝の学習や補習の充実 ウ. 朝の学習の実施 エ. 補習の実施	ウ. これまでの総括を踏まえた、より効果的な朝の学習の実施 エ. 明確な目的のもと、生徒の実態に応じたきめ細かな補習の実施	ウ・エ 設置の有無	ウ. 中学 1 年の百マス計算や音読から始まり、中高におけるリスニングや小テスト、ペン字や読書など到達度を見ながら内容を変えて実施。(○) エ. 希望者補習や指名補習など、きめ細かく実施。(○)
	(3)新カリキュラムの実施 オ. 新カリキュラムの実施と各コースの取り組みの点検 カ. 新コースの学力到達度の把握	オ. 新カリキュラムの適切な実施と各コースの目標達成に向けた取り組みの適合性の点検 カ. 新コースの目標達成に向けた学習における生徒の学力到達度の把握	オ・カ 実施の有無	オ. 教務部や各コース主任を中心に、進行管理と点検を実施。取り組みの修正は適宜。(○) カ. 定期テストや小テスト、外部模試などを活用。(○)
	(4)生徒へのサポート キ. 学力や生活状況の把握 ク. 定期的個人面談の実施 ケ. e-ラーニングの活用	キ. 担任や教科担当者等による生徒の学力や学校生活状況の把握と共有 ク. 担任による定期的な個人面談の実施 ケ. e-ラーニング（希望制）の活用による生徒個々の躰きチェックとリカバリー	キ・ク・ケ 実施の有無	キ. 各学期末の成績や模擬テスト等の結果を関係者で共有。また日々の生活状況についても適宜意見交換。(○) ク. 全員の保護者懇談は年 2 回実施。担任による個人面談は適宜実施。(○) ケ. 十分に活用するところまでは達していない。(△)

<p>2 豊かな人間性の育成</p>	<p>(1) 生活指導を通じた“Little Lady”の育成 ア. 挨拶・言葉遣い・身だしなみ指導の実施 イ. 集団生活におけるマナー指導の実施</p> <p>(2) 発達段階に応じたキャリア教育の充実 ウ. 職業観・勤労観等の醸成 エ. 段階的取り組みの実施</p> <p>(3) 励まし合いや思い遣りの心を養う教育活動の充実 オ. 人権教育の充実 カ. 視聴覚行事・校外活動・図書館活動の充実 キ. 仲間づくりと自主性の育成</p>	<p>ア. 挨拶・言葉遣い・身だしなみ指導の全校的取り組みの推進 イ. 授業や集会に取り組む姿勢など、集団生活におけるマナー指導の徹底</p> <p>ウ. 生徒に望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識を身に付けさせるための有効な取り組みを検討・実践 エ. 自分の興味・関心や能力・適性を理解し、将来について考えさせる段階的な取り組みを検討・実践</p> <p>オ. 人権教育のさらなる充実 カ. 視聴覚行事や校外活動、図書館活動の目的の再確認と進化 キ. 様々な学校行事やHR活動、クラブ活動などを通じた仲間づくりと自主性の育成</p>	<p>ア・イ 実施の有無 アンケート結果</p> <p>ウ・エ 検討・実践の有無</p> <p>オ・カ・キ 取組の有無</p>	<p>ア・イ. 挨拶運動や登下校指導、集会時の指導の実施に加え、日常の学校生活における注意等により効果は上がっている。「挨拶をよくしている 中学 89%、高校 80%」 「ルールをよく守っている 中学 95%、高校 93%」(◎)</p> <p>ウ・エ. 進路指導部主導の高大連携講座や資格取得講座をはじめ、様々な説明会や体験行事を実施。また、高2・高3の進路HRにおける小論文対策講座など、HR等でいろいろな機会を利用して進路意識を高めている。(○)</p> <p>オ. 弁護士による女性の人権授業や北海道修学旅行前のアイヌ民族についての人権学習、リバティ大阪の見学授業などを実施。(○) カ. 学外での芸術鑑賞行事や中学校外学舎、夏の高原学舎やスキー学舎など実施。図書館通信・アンケート等を活用した図書館活動も充実。(○) キ. 積極的な生徒自治会の役員を中心に、体育祭や文化祭、各種委員会も生徒主体で行われている。また、中高合同の自治会活動が多く、自治会執行部役員だけでなく、その次のリーダーの活動も活発になってきている。(○)</p>
<p>3 進路の保証</p>	<p>(1) 高校3年生の進路希望の100%実現 ア. 進路指導体制の強化 イ. サポート体制の再構築</p> <p>(2) 中学生及び高校1年生・2年生に対する発達段階に応じた進路意識の育成 ウ. 学力把握とアドバイス エ. 進路指導部に係る行事の充実</p>	<p>ア. 学年と進路指導部の連携による、進路情報の周知やきめ細かな進路相談の実践などの進路指導体制の強化 イ. 進路実現に向けての講習や補修、講演会や体験活動など、適切なサポート体制の再構築</p> <p>ウ. 担任を中心とした、生徒一人一人の学力の把握と進路目標についての適切なアドバイス エ. 進路指導部による様々な行事の継続・充実と適切なフォローアップの実施</p>	<p>ア・イ 取組の有無</p> <p>ウ・エ 取組の有無</p>	<p>ア・イ. 希望する進路の実現に向けて、個人面談や進路HRを適宜実施して、きめ細かくサポートしている。内部進学希望の生徒には、樟蔭女子大の教員による説明会や面談体験などを実施。外部大学進学希望生には志望校に応じた模擬試験を受験、個人面談において結果の分析・アドバイスを繰り返し行っている。(○)</p> <p>ウ・エ. 【中学】 全員受験の模擬試験を年間5回実施し結果を分析・共有。生徒とも適宜面談している。また、オリエンテーション合宿や勉強合宿の実施、計画的な進路HRで進路意識の育成を図っている。(○) 【高校1・2年】 各コースの進路目標に応じた模擬試験や進路HRを計画的に実施。各種補習や小論文指導などを通じて、目標達成への自主的な取り組みができるように導いている。また、大学の教員による出張講座や学部学科説明会により進路意識を高めている。(○)</p>

4 教員力の向上	<p>(1) 授業力の向上 ア. 授業アンケートの活用 イ. 研究授業の実施 ウ. 授業研究チームによる授業改善への取り組み</p> <p>(2) 教職員の学校運営に係る体制づくり エ. 運営体制移行による課題の解決 オ. 運営委員会の活性化とミドルリーダーの育成 カ. 特命化した機動性のある組織の活用</p> <p>(3) 教員研修と資質の向上 キ. 到達目標システムの利用 ク. 授業観察や授業アンケートの活用 ケ. ICT の技術習得研修の実施</p>	<p>ア. 授業アンケートの実施と活用による授業力の向上 イ. 研究授業の実施による授業内容・方法の相互チェックと改善 ウ. 電子黒板STやグループ学習STなどの授業研究チームのリードによる授業改善への取り組み</p> <p>エ. 職員会議の有効性のさらなる確保 オ. 運営委員会の活性化と、それを通じたミドルリーダーの育成 カ. 評価・検討プロジェクトチームなどの特命化した機動性のある組織の活用</p> <p>キ. 到達目標システムによる目標設定と達成度チェック、管理職との面談 ク. 管理職による授業観察やアドバイスと、生徒による授業アンケート結果の授業への反映 ケ. ICT 機器の活用に向けた技術習得研修の実施</p>	<p>ア・イ・ウ 取組の有無</p> <p>エ・オ・カ 取組の有無</p> <p>キ・ク・ケ 取組の有無</p>	<p>ア・イ. 生徒全員による教科担当全員対象の授業アンケートを7月に実施。結果は個人別・教科別でまとめ、全員に提示。評価の高い教員の授業を見学。(○)</p> <p>ウ. 電子黒板等を活用した教育 ICT の充実へリードする電子黒板研究チーム、学び合いを中心とした授業方法の改善に取り組むグループ学習研究チームがそれぞれ積極的に活動している。(○)</p> <p>エ. 分掌会議や教科会議、コース会議や担任会議等における教員の思いを踏まえた運営委員会での議論の結果が、全体に確認・徹底される職員会議をめざす。(△)</p> <p>オ. 学校の運営に係る議論をする場としての運営委員会の活性化を図るとともに、その中でのミドルリーダーの育成をめざす。(△)</p> <p>カ. どの分掌にも属さない緊急性のある諸課題について、希望者からなるチームで迅速に対応できるように努めている。(○)</p> <p>キ. 提出された目標設定シートをもとに、管理職と面談を実施している。(○)</p> <p>ク. すべての授業を観察し、生徒による授業アンケートの結果も踏まえて面談している。(○)</p> <p>ケ. できるだけ多くの教員が参加できるように、日時の設定にも配慮している。(○)</p>
5 入学生者の確保	<p>(1) 「樟蔭ブランド」のアピール ア. 「樟蔭ブランド」の再確認と新たなブランド作り イ. 広報活動の新たな展開 ウ. 学園広報との連携 エ. 地元などのイベントへの参加・協力</p> <p>(2) 新しいコース・専科の取り組みについての徹底した広報活動 オ. それぞれの目標や学習内容の周知活動 カ. 中高大の体系的な教育体制の構築</p>	<p>ア. 教員や生徒・保護者アンケート結果を踏まえた「樟蔭ブランド」の再確認と、新たなブランド作りへの取り組み イ. これまでの広報活動の検証を踏まえ、広報室を中心とした学校全体による組織的・積極的な広報活動の新たな展開 ウ. 学園広報との連携の強化 エ. 地元をはじめ、様々なイベントへの積極的な参加・協力</p> <p>オ. 中学校の新コース、高校の設置した専科についての目標や学習内容の積極的な周知活動 カ. 中高大の連携による体系的な教育体制の構築と広報</p>	<p>ア・イ・ウ・エ 取組の有無</p> <p>オ・カ 取組の有無</p>	<p>ア・イ. 各種アンケートの結果より本校への入学を決定した理由を明確にして、教員全体で共通認識している。また、変化する生徒や保護者のニーズを把握して、新しいコースや専科を設置することや新しい取り組みを実施することにより、新たなブランドづくりに努めている。(○)</p> <p>ウ. 創立百周年記念行事との関係もあり連携を進めているが、全体的な動きにはなっていない。(△)</p> <p>エ. あらゆる機会を捉え、クラブや自治会を中心に取り組みを進めている。(○)</p> <p>オ. 今年度入学生からの新コース・専科を設置するとともに、これまでの取り組みの評価すべき点や修正すべき点を明確にして、生徒一人一人が興味・関心や能力・適性に合った学習ができるよう取り組みを進めている。(◎)</p> <p>カ. 大阪樟蔭女子大の児童学科やライフプランニング学科等一部の学部学科との連携体制を構築。また、国際英語学科や心理学科など他の学部学科との連携強化も企画・推進している。(○)</p>

4 自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見（平成 28 年 3 月 24 日）
<p>○生徒[平成 27 年 7 月実施]</p> <p>学校生活や家庭での状況や意識について、30 項目についてのアンケートを行った。そのうち、肯定的な回答が特に多いもの（概ね 8 割以上）の一部を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の雰囲気は良い ・ルールやマナーを守り、節度ある行動がとれている ・学校へ行くのは楽しい ・今のクラスが気に入っている ・学校内にいろんなことを話せる友人がいる ・家の人とはよく話をする <p>傾向は昨年度と同様であるが、その中でも学校生活の満足度や規律への取り組みの評価が高くなっている。</p> <p>○保護者[平成 27 年 12 月実施]</p> <p>学校の様々な取り組みについての満足度調査を実施した。その結果、中高合わせて全体的な保護者の満足度は高いもの（8 割以上）であり、保護者から見た生徒の満足度も概ね 8 割となっていた。特に「生活指導」についての評価は中高ともに高い。入学理由については中高共に高い順から、「伝統と実績」「通学の利便性」「内部進学制度」であった。また、本校生のイメージとしては高い順に、「明るい」「真面目である」「落ち着いている」となっている。</p> <p>○教職員[平成 28 年 2 月実施]</p> <p>現在の取り組みについて、24 項目についてのアンケートを実施した。生活指導や学校行事に対する自己評価は昨年と同様高いものであった。特に自己評価が昨年に比べて高くなっているのは、学校の特色・講座の開講・生徒の自治会活動である。また、学校全体で取り組むべき課題に対する意識は向上しているが、学習面での取り組みや行事の在り方についてはまだ工夫・改善すべき点がある。</p> <p>【アンケート結果から～これから取り組むべき課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業方法の工夫や内容の精選など、授業の質のさらなる向上 ・学習や行事などにおける、自立した女性を育成するための様々な取り組みの点検と改善 ・生徒の成長をより一層サポートするためのシステムの構築 ・ミドルリーダーの育成を中心とした、個々の教員の力量アップへの取り組み ・施設や人材など、中高と大学との連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 教育がかなり充実しているので、小中学生対象の体験授業を実施するなど、さらに積極的にアピールしたほうが良い。 ・一般的に、生徒や保護者の状況は大きく変化している。樟蔭の姿勢は評価しているが、さらにしっかりと対応できる体制づくりに努めて欲しい。 ・子どもが相談しやすい環境を用意すること、孤立させないことは、家庭や学校だけの問題ではなく、社会全体の取り組みが必要であるという意識を持ちたい。 ・樟蔭の外部からの評価は、生活指導がしっかりしているということだが、それ以外でも私立の女子校に求めることはたくさんある。優しさと厳しさを教えて欲しい。 ・校内 LAN を用いた教員間の会議や情報共有は素晴らしいことである。 ・生徒の学力等の把握には ICT は有効であるが、同時に個人情報の管理にも細心の注意を。 ・すべての HR 教室に電子黒板を設置するだけでなく、図書館や体育館においても活用しているのは素晴らしい。また、コミュニケーション力が求められている中で、グループ学習を推進しているのは大変評価できるし、効果が楽しみだ。 ・私学の最大の悩みは、ほとんど異動の無い中で、いかに人材を育成していくかにある。先輩の仕事を見ながら育ていく、キャッチボールをしながら人を育てていく、このような環境が必要である。 ・私の子どもは中学から入学したが、樟蔭中学高校を信頼しており、任せておけば大丈夫という観点から選んだ。 ・中高一貫の利点を生かして、進路検討会などを中心にしたきめ細かなサポートを充実させて欲しい。 ・塾などは、学校の教員がどれだけ一生懸命に見てくれるかというところで評価する。教員の頑張りが一番である。 ・目的を明確にしたプロジェクトチームをその都度設置し、それぞれに任せるという手法を採っているが、機動性がよく発揮されると同時に、人材の育成の観点からも素晴らしいことである。